

環境未来都市推進支援事業

協働事業の事例集

モデルケースを参考に
市との協働事業に取り組んでみませんか

市民文化スポーツ局
市民活動推進課

「ESD未来創造セミナー」 ESDコーディネーター育成並びに修了者サポート事業

- ◆提案団体：特定非営利活動法人
北九州サステナビリティ研究所
- ◆担当課：環境局環境学習課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成25年度



提案団体の概要

北九州サステナビリティ研究所のキーワードは、「持続可能性(サステナビリティ)」です。市民、団体、企業、行政のネットワークに基づく持続可能な社会システムを構築し、地域の活性化に寄与するために設立した法人です。持続的な環境保全・人権が守られる多文化共生社会・地域が元気な経済を目指して、研究・教育活動を行っています。

事業の目的と概要

北九州市では、環境未来都市の実現に向けて、持続可能な社会づくりのための多様な取組みが進められています。このような中、多様な主体が「つながり、一緒に考え、取組む」手法を身につけるESD（持続可能な開発のための教育）は、これからの時代にふさわしい人材育成の有力な手段として注目されています。このESD活動の普及を進めるためには、様々な課題に取り組む人々を分野横断的につないで参加と協働を促し、課題解決のための学びの場をコーディネートできる視点と力を身につけた人財が重要な鍵となります。45名の修了生が誕生したH24年度の「ESDコーディネーター育成研修」を踏まえ、H25年度はそれに加え、前年の研修修了生を主な対象とし、実践に必要な知識やコーディネート力を高める「修了生サポート研修」を実施しました。

■ESDコーディネーター育成研修

「自ら課題を見つけ出す力」と「地域における課題解決に向けた企画力」の修得を目的に、ESDの基礎・企画力の習得講座とワークショップ、自らの活動地域における活動企画書づくりなどを行いました。

■修了者サポート研修

地域におけるESD活動実践を目的に、仕組みづくりや多様な主体との協働関係の構築、具体的な実践活動の企画づくりなどを盛り込んだ実行可能な事業計画を策定しました。

役割分担

■行政の主な役割

受講対象者及び所属課への研修実施連絡などの事前調整、育成カリキュラムや報告書作成にかかる補助・助言、日程調整・実施場所・研修内容の企画立案にかかるサポート、各講座・ワークショップ及びフォローアップ会合の共同開催など

■団体の主な役割

育成カリキュラムの作成、スケジュールの組立、受講者・ESD協議会関係者への働きかけ（チラシの作成等）、各講座・ワークショップ・フォローアップ会合の運営、報告書作成、事業終了後のフォローなど

事業費とその主な内容

■事業費 2,533,410円 (うち補助金額 1,980,000円)

報償費(講師謝金)、旅費・交通費(講師交通費)、使用料(会場使用料)、通信運搬費(郵便代、宅配便)、印刷製本費(研修資料費、報告書費)

協働による成果

市は、既に地域活動の核になり、今後の発展的な広がりが期待できる市民センター館長などを対象に参加しやすい体制づくりを、団体は、独自のネットワークを活かした熟練講師の依頼や実践に向けた多くの課題に対応出来る実績やノウハウを活かした「駆け込み寺」的なサポートの仕組みづくりなど、それぞれの活動分野を活かして協働することにより、受講者がステップアップを実感できる効果的・効率的な研修内容にすることができました。さらにその結果8つの実践団体が誕生し、実践活動の広がりが期待できるものとなりました。

また、講座終了後参加者からは、ESDは「地域を見直す切り口」や「地域課題解決に向けた糸口」になった、今後のまちづくり活動において重要な視点としてESDを加えたい(+ESD)、コーディネーターの役割の重要性を実感した、ESDで地域のために何かをしたいなど、ESD活動の普及において前向きな気持ちと熱意に力強さを感じました。

■研修の受講生・参加者

- ◆「ESDコーディネーター研修」 修了生 26名
- ◆「修了者サポート研修」 修了生 14名
- ◆研修報告会「フォローアップ会合」 参加者 約80名



ESDコーディネーター研修



修了者サポート研修



フォローアップ会合

担当課の声(反省点・苦労した点)

■ カリキュラムの作成や関係者のスケジュール調整等に時間を費やしてしまったため、セミナーの開催がやむを得ず地域の行事等繁忙期と重複し、市民センター館長などの参加が困難になる状況が見られました。今後は、定期的なセミナーの開催等により、まずは活動フィールドを持ち、意識の高い人材にもれなく効果的に受講いただき、ESD活動の全市的展開を目指したい。

提案団体の声(反省点・苦労した点)

■ ESDに見識の深い講師が近隣にはいないこと、事業が進むにつれてESDの特徴である多様な課題に対して分野横断的協働のあり方や効果的解決方法の検討に時間を要し、スケジュール調整に苦慮しました。今後もESD活動の普及の鍵となる修了生のフォローを丁寧に行うとともに、ネットワークの構築、協働等による新たな活動を生み出すなど、活動実践への広がりを目指したい。

グリーンオペラ「なの花のおはなし」

◆提案団体：NPO法人

北九州リバーサイドミュージックBOX

◆担当課：環境局環境学習課

◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）

◆事業年度：平成25年度



案団体の概要

2004年7月、紫川河畔での野外クラシックコンサート「リバーサイドコンサート」実現のために立ち上げた任意団体「北九州リバーサイドミュージックBOX」としての5年間の活動を経て、2010年2月、NPO法人となる。

その間、「リバーサイドコンサート」をメインに市内の至るところで気軽にクラシック音楽を楽しめる企画でコンサートを開催。

「音楽の力あふれる心豊かなまちづくり・人づくり」をモットーとし、演奏家だけでなく異業種の集まりによる“アイデア力”が特徴。コンサート開催を軸に、(公財)北九州市芸術文化振興財団による響ホール音楽アウトリーチ事業のコーディネート業務、保育士のための音楽指導なども展開。「人口の1%と言われるクラシックファンを2%に!!」を合言葉に“音楽の力”を発信中。

事業の目的と概要

循環型社会の実現をめざす取り組みの一つである「菜の花プロジェクト」をテーマとした環境メッセージを、芸術性が高く、視覚・聴覚の両面からアプローチできる「オペラ」という媒体として制作し、小学生を中心とする市民が鑑賞することで、オペラ鑑賞による「感動」が環境問題への関心強化や意識改革、また市民環境力の向上を期待し事業を実施しました。

■脚本製作・作曲（7月～12月）

■稽古・広報（1月～3月）

役割分担

■行政の主な役割

- ・教育現場との架け橋となり、教育委員会と連携しオペラの広報PRを行う。
- ・より効果的な環境学習教材とすべく、オペラの内容は活用方法を考え助言する。

■団体の主な役割

- ・子どもたちに伝えたい環境メッセージを踏まえた脚本、歌を制作しオペラを完成させる。
- ・オペラ鑑賞の学習効果を図るため、公演事前事後に授業を行うようモデル校と調整、授業内容・方法を検討する。

事業費とその主な内容

- 事業費 2,541,559円（うち補助金額 1,980,000円）
会場使用料、委託費（舞台照明、脚本作曲、ホームページ）、報償費（出演料）

協働による成果

環境学習課が窓口となり、オペラ公演に教育委員会の「共催」が採択されました。このことで力強いバックアップとなり広報面でも、幅広く多方面に宣伝が出来ました。また市政だよりでの告知や市政ラジオ「北九州トークウィズユー」出演で、市の旬の情報としてPR出来ました。

モデル校の青山小学校でのプレ公演後、環境学習課による「菜の花プロジェクト」についての説明で、子どもたちで環境学習内容についてより詳しく伝えることが出来ました。NPO独自のネットワークだけでは手の届かない部分への広報力が功を奏し、当日予想以上の入場者数（約500名）となりました。



担当課の声（反省点・苦勞した点）

- 環境学習教材としてのオペラをどのようにして教育現場で活用していくかという点に当初は苦勞しました。しかし、協議を重ね、最終的にはモデル校での出張講演やフォローアップ授業を通し、環境学習教材として教育現場で活用できることを証明できました。

提案団体の声（反省点・苦勞した点）

- 苦勞した点は、音楽の力による環境力向上への取り組みにより、どのような成果を上げることができるか、お互いの知恵を出しあうプロセスです。反省点は、この事業に採択されたことで完成させることが出来たオリジナル環境オペラ「なの花のおはなし」を、本来目的である環境学習教材として活用できるところまで提案出来ていないところです。

ゴミ拾いはスポーツだ！！

スポーツGOMI拾い大会 in 北九州

- ◆提案団体：特定非営利活動法人
北九州スポーツクラブACE
- ◆担当課：環境局業務課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成25年度



提案団体の概要

スポーツを楽しむことを原点に、「心身の健康を保つこと」「自分を表現すること」「競技力を高めること」など様々な目的を持つ人々が集う地域スポーツクラブを設立し、スポーツを楽しむことをはじめ、競技スポーツ選手の育成・支援、質の高い指導や親睦・交流の場の提供などに取り組む。また、だれもが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しめる環境づくりに貢献し、より豊かなスポーツライフの実現とスポーツの振興に寄与するとともに、他のスポーツ関係団体はもとより学校や地域との連携を図り、スポーツを通じた青少年の健全育成に取り組むものとする。

事業の目的と概要

北九州市は、他の政令指定都市に先駆けて家庭ごみの分別収集を義務付け、小学校で環境教育を実施するなど環境意識が非常に高い。その一方で、孤独死が発見されたり、地域の交流が希薄化するなど、他都市が抱える課題は同様に存在している。

当法人は、平成24年度、地域社会全体で子どもの教育に参画できる社会を目指し、『高い環境教育効果』と『地域社会の連帯感回復・向上』が期待できる「スポーツGOMI拾い大会」を県内で初めて開催し、3大会で計413名の方に参加していただいた。参加者からは、「環境意識が高まった」「普段ふれ合うことのない年代と一緒に体を動かして楽しかった」などの声を多くいただき、「スポーツGOMI拾い」の持つ力を実感することが出来た。しかしながら、「スポーツGOMI拾い」は、体験してこそ魅力が伝わる競技である。今後は、より多くの市民にこの競技を体験していただき、地域コミュニティの活動の一つとして定着していくことが望ましい。

そこで平成25年度は、「スポーツGOMI拾いの普及」「地域規模実施モデルの構築」の2本柱で事業を実施するものとする。

役割分担

■行政の主な役割

クリーンサポート事業の一環として「清掃用具の貸出」「ボランティア袋、軍手、火ばさみ等の提供」を行った。また、地域規模大会実施の各調整や広報など多岐にわたって業務を担当した。

■団体の主な役割

事業全般の運営を団体が担った。

事業費とその主な内容

■事業費 2,546,793円 (うち補助金額 2,000,000円)

謝礼金、報償費(講師謝金、参加賞)、旅費・交通費(講師旅費)、委託料(チラシデザイン、ゼッケン、ルールブック)、消耗品(文具等)

協働による成果

- ・本事業では、7大会計1,473名の方に参加していただき、972.76kgのゴミを収集し、『スポーツGOMI拾い』を多くの市民に体験していただくとともに、北九州のまち美化にも貢献したことはもとより、この競技の周知拡大ができた。
- ・PTA関連行事、小中学校授業でも大会開催を行うことが出来たことから、小学校、中学校、教育関係者からの『スポーツGOMI拾い』の注目度の高さを実感した。なお、今回は日程等により開催に至らなかったが市PTA協議会を通じて、市内各区の小学校への開催の働きかけができ、次年度以降への開催のステップを踏めた。
- ・地域規模での様々な開催方法を実施したことで、「地域の連帯感回復」の課題解決の一步を踏み出すことが出来た。
- ・「スポーツ」のエッセンスがあるスポーツGOMI拾い大会を多くの市民に経験していただいたことで、スポーツがもつ「同じ目標へと立ち向かう心」「チームで力を合わせることの大切さ」「達成感」「爽快感」「負けた時の悔しさ」「チャレンジ精神」などを子どもたちに体感させ、青少年の健全育成につなげることが出来た。
- ・高齢者の参加者から、「普段ふれ合うことのない年代と一緒に活動できて今日はほんとうに楽しかった」という声を多くいただき、多世代交流(審判員に大学生が参加)の大切さを実感として再確認でき、高齢者のQOLの向上へつながった。
- ・2年目の協働事業ということもあり、担当課(環境局業務課)ともうまく連携し事業を行うことができ、またPTAや学校、情報誌等の様々な新しい協働先と連携するネットワークが構築できた。



担当課の声(反省点・苦労した点)

本事業で、参加者からは高い満足度が得られ、まち美化という点でも一定の効果が得られた。今後は、地域や学校などに根ざした活動をいかに広めるかが鍵になる。

提案団体の声(反省点・苦労した点)

本事業は、行政との協働なくしては実施できなかった事業であった。大会運営もさることながら、小学校等の学校機関、PTA、地域などとのネットワークは行政なしでは難しく、構築できなかった。

環境未来都市「北九州市」防災啓発フェスタ 2013

- ◆提案団体：特定非営利活動法人
北九州COSMOSクラブ
(北九州市耐震推進協議会)
- ◆担当課：建築都市局建築指導課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成25年度



提案団体の概要

「生涯学習の精神で、楽しく学び、創造し、次世代の人間育成を推進する」を理念に掲げ、パソコンを利用したCADやその他のスキルはもとより、情報交換を通じ、まちづくり活動や、建築・福祉団体等との連携・協働を推進し、地域貢献活動への積極的な参加・支援により、まちづくりの推進と地域文化の向上及び福祉の充実に寄与したいと考える団体です。

事業の目的と概要

環境未来都市「北九州市」が有する優れた技術・経験等を広く発信し、防災啓発・災害に強いまちづくり・危機管理体制の構築につながる機会として企画設計、実施しました。

■住まいの耐震化セミナー(平成25年11月17日開催)

JAM広場にて防災啓発セミナー開催、市民の災害に強いまちづくりへの意識向上を図り防災モデル都市基盤づくりへつなげる。

■美味しい防災カフェ in 北九州開催

平成25年9月16日、平成26年3月21日リバーウォーク北九州にて防災セミナー開催。地震体験車両や防災食の試食など市民へ防災意識の向上を図りました。

役割分担

■行政の主な役割

耐震補助制度などの市の取組みに関する資料の提供、防災関連の他部署との調整、イベント広報、セミナーの講師やスタッフ

■団体の主な役割

地震体験車両の乗車、防災食を市民と一緒に作成試食、防災ハンドブック作成し市民へ配布、防災セミナーの講習を寸劇など交えて開催。

市民目線での具体的な内容を、親しみやすい形で解りやすく啓発する事。

事業費とその主な内容

■事業費 3,300,050円（うち補助金額 2,000,000円）

会場費（施設使用料、会場設営料他）、報償費（謝礼、交通費）、印刷費（ポスター、チラシ代）、音響費（音響関係費、ビデオ制作放映、レンタル料）

協働による成果

防災に対する危機感から発足させた協議会が、メンバーの相互理解と自主性を前面に活動してきた経験を活かし、行政との協働事業において常に立場の違いを尊重しながら、対等に、お互いの目標に向かって活動することができたと思います。

■防災啓発フェスタ 2013 開催

来場者 1,000 名以上 防災セミナー開催 被災地からの復興講演 防災ハンドブック配布

■北九州市防災啓発フェスタ・防災美味しい防災カフェ in 北九州(リバーウォーク・ヒナタにて)

北九州市防災啓発フェスタ（平成 25 年 9 月 16 日開催） 来場者 40 名

美味しい防災カフェ in 北九州(平成 26 年 3 月 21 日開催) 来場者 50 名



担当課の声（反省点・苦労した点）

■ 市内住宅の耐震化率向上のため、様々な普及啓発を今までも行ってきました。事業主の方などは、防災意識が感じられる事が増えてきたように感じますが、なかなか個人の方の防災意識があまり感じられず、木造住宅の耐震化率が低いという状況の中、市民に親しみやすい内容・市民目線で防災フェスタ等を開催できたことはとても有意義であったと思います。啓発活動は、すぐに成果が出るものではなく、続ける事に意義があります。今後もこの活動が続くことを期待します。

提案団体の声（反省点・苦労した点）

■ これまで市内では防災啓発というテーマの活動があまり開催されておらず、土地柄危機管理意識が低いという点から啓発活動を行って参りました。（計 4 回開催）

市民に啓発を行っていくためには、実績を積み上げながら、継続的に開催していくことが大切だと考えます。

素敵で快適な居住環境整備事業

- ◆提案団体：特定非営利活動法人
北九州市を明るく元気にする会
- ◆担当課：港湾空港局港営課
- ◆提案型：環境未来都市推進支援事業（補助金）
- ◆事業年度：平成25年度



整備の行き届いた活動場所の全景

提案団体の概要

市内の緑地や公園など整備が行き届かない場所の環境整備を行い、市民が安心して暮らせるよう素敵で快適な生活環境を創るために結成した団体です。

団体の構成は、個人会員126名、団体会員4団体。

平成25年度の活動実績は、会員全員に要請した活動を15回、有志のみ要請した活動13回、ほぼ毎日2名から6名自主的に参加した活動 延べ1,423名が参加。

事業の目的と概要

市民の集い、憩い、交流の場を目的に設置された八幡東区の東田緑地親水公園は、十分な整備が行き届かず、市民生活の安全安心を脅かすような環境になっていました。そこで、担当の港湾空港局と協働で公園等を整備し、市民の集い・憩い・交流の場をつくと同時に安全な生活空間の確保と素晴らしい親水公園を造りあげることを目的に事業を展開してきました。

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| ○公園(32,000㎡)の生い茂る草木の処理 | ○不法投棄されるゴミの撤去 |
| ○花壇(1,600㎡)の整備と四季折々の花の植栽 | ○3か所の芝生広場(約8,000㎡)の整備 |
| ○海辺と陸側700m×2か所の遊歩道整備 | ○市民とのフェスティバル |
| ○子供たちの自然環境教育菜種油絞り体験学習 | ○築山(約600㎡)の整備など |

役割分担

■行政の主な役割

- ボランティアに必要な資材の調達（真砂土、ブロック、散水用の水道の設置、雑草対策用シートの提供、防風対策用支柱の提供）及びボランティアの機材置き場と控室の提供。
- 市民が快適に公園を堪能できるよう、夜間照明の整備、高木の剪定、市民トイレの設置、休憩者やベンチなどの整備、市民とのフェスティバル開催に向けて関係先との調整など。

■団体の主な役割

- 事業の目的の達成のため、事業の概要に述べた8つの活動を実践
- 菜の花フェスタの準備から開催までの関係者への案内
- 年間2回の広報紙の発行など

事業費とその主な内容

■事業費 1,188,661円（うち補助金額 950,000円）

材料費（肥料、花の種・苗代）、備品費（機材、備品、整備費）、使用料（トラック借用代）、印刷製本費（活動報告用プリント代、インク代）、通信運搬費（案内郵送代）、保険、交通費、消耗品費

協働による成果

- 不法投棄されるごみの撤去・汚染物資の流出阻止・生い茂る草木の処理により、ゴミと犯罪のない快適な公園となった。
- 花壇の整備と四季折々の花の植栽で、市民の交流や集い、憩いの場が提供出来た。
- 芝生広場の整備で子どもから高齢者まで多世代が利用出来るようになった。
- 遊歩道整備で安全で安心して利用出来る市民のウォーキング等健康づくり場となった。
- 菜の花フェスティバルで市民との交流・ボランティア活動のPRが出来た。
- 種油絞り体験学習で子ども達の資源循環型社会づくりの教育の場の提供につながった。
- 築山の整備で春先から晩秋まで花桃、花梅、ボケ、彼岸花、アジサイなどが、楽しめるようになった。



荒れ果てた親水公園



整備の行き届いた生活環境



遊歩道がアジサイ道に変身

担当課の声（反省点・苦労した点）

- 市の海岸線には数多くの緑地帯があります。そのため、行政として予算面の制約や事業の継続性に欠ける点があります。また、市民団体と協働事業にあたり、専門的な知識や実践を学び、1年を通じて高いレベルで緑地を維持していくことの大切さを認識しました。

提案団体の声（反省点・苦労した点）

- 協働事業を展開して5年経過しました。市民生活の安全を守り、安心して生活出来る環境づくりについては、協働事業の相手側港湾空港局の理解と支援があったから出来たと思っています。24・25年度は、市からの助成金が出たため、計画通りの事業が展開でき満足する効果をあげました。協働事業は、最小の経費で最大の効果が得られ、常に整備の行き届いた状況が維持できることにあります。ぜひ、2年間の助成といわず継続して欲しいです。